

第1学年1組 国語科学習指導案

1. 単元名 こえにだしてよもう 『くじらぐも』

2. 単元目標

登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむことができる。

雲と話したいことを考えて書くことができる。

登場人物の様子などを想像したり、楽しく表現したりしようとするすることができる。（関心・意欲・態度）

体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。（読む）

語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読むことができる。（読む）

自分の考えや、友だちのよさについて発表することができる。（話す）

くじらぐもにあてた手紙やくじらぐもからの返事を考えて書くことができる。（書く）

3. ひびき合う子ども達を目指すための指導の工夫

単元と指導について

本単元では、自分たちと同じ一年生が出てくることや、日常の体育の時間という身近な出来事が題材となっているため、繰り返し読む中で物語に十分に親しむことが出来ると考える。

そこで、物語に出てくる一年生たちと一緒に空想の世界に入り、会話文を付け足す活動を取り入れ、物語を読む際に想像を広げて読ませたい。また、まとめの活動では、くじらぐもに手紙を書いたり、くじらぐもになって返事を書いたりする活動を取り入れる。くじらぐもにあてた手紙では、楽しく音読し、自分もくじらぐもに飛び乗ったり飛び降りたりした感想も交えながら、詳しく書く力をつけさせたい。返事では、友だちと話し合う中で物語の続きを考え、楽しく想像を広げて書く力をつけさせたい。

< 知的好奇心を引き出すために >

本単元では、物語の世界に浸って読んだり、想像を広げて書いたりしようとする気持ちを知的好奇心とした。そこで、これらの知的好奇心を引き出すために、次のような手立てを考えた。

1. 動作化

各場面で繰り返されるくじらぐもと子どもたちのやり取りについて、実際に校庭で同じように体を動かしたり、役に分かれて声を出したり、場面ごとに動作化する活動を取り入れる。それにより、友だちと一緒に声を出し合う楽しさや、物語を楽しく読む気持ちが高まると考える。

2. 挿絵の活用

教科書に描かれている挿絵にも十分に目を向けさせることにした。それにより、場面の様子や子どもたちの気持ちが、イメージしやすくなると考える。

3. 教具の工夫

実際に大きなくじらぐもを作成し、それをくじらぐもが出てくる場面で活用することにした。高い場所にあるくじらぐもを眺めることや、そこに自分自身の絵を貼り付けることにより、自分もくじらぐもを追いかけたり、くじらぐもに乗っている気持ちになったりして、想像を広げながら読み進めることが出来ると考える。

物語の続きの手紙を書く際に、さまざまな雲の写真を見せることにより、物語の中だけに留まらずに想像を広げることができると思う。

これらの手立てをもとに、知的好奇心を引き出していきたい。

<関わり合せ、ひびき合う姿を求めて>

「ひびき合う姿」としては、「 ちゃんの考えもいいな。真似してみたいな。」「こんなところをがんばっているな。上手だな。」など、友だちの考えから自分を高めたいという思いを持つことや、自分や友だちの良いところを見つけて認め合うことができる姿と考えた。

本単元では、くじらぐもと子どもたちのやり取りが繰り返し出てくる。そこで、会話文を読む際に、物語と同じようにくじらぐもと子どもたちに分かれて読み、友だちと関わりながら読むことを取り入れたい。また、自分も物語の中にいるつもりで想像を広げたり、会話文を付け足したりし、それを友だちに紹介したり、友だちと一緒に声を出して読んだりする活動を取り入れ、さらに関わり合う機会を増やしたい。話の続きを手紙で書く活動では、話し合いを取り入れ、一人だけでは考え付かない楽しい想像ができるようにしたい。

また、「ひびき合う姿」のために、書いた文章を友だち同士で読み合う活動を取り入れたい。読み合う時間があることで、自分との違いや、友だちの書いた文章のよさに気付くことができればよいのではないかと考える。また、振り返りカードを使いたい。内容は、自分の音読を振り返ることと、友だちのよいところを認めることとし、よいところを伝え合うことで、友だちと高めあいながら活動が出来ていくのではないかと考える。

4. 指導計画（全9時間扱い）

- 1 「くじらぐも」の範読を聞き、あらすじをとらえる。新出漢字を学習する。
- 2 「くじらぐも」を声に出して読み、おもしろいところを発表し合う。
- 3 校庭の場面の子どもたちとくじらぐもの様子を捉え、会話文を工夫して読む。
- 4 くじらに飛び乗る場面の子どもたちとくじらぐもの様子や気持ちを話し合い、会話文を工夫して読む。
- 5・6 くじらに乗った場面を読み、くじらぐもに乗った子どもたちの気持ちを想像し、自分も乗ったつもりになって想像したことを話し合う。
- 7 くじらぐもとお別れする場面の先生や子どもたちの気持ちを想像して話し合い、会話文を工夫して読む。
- 8 「くじらぐも」を振り返り、くじらぐもにあてた手紙を書く。
- 9 くじらぐもになったつもりで、物語の続きを想像して返事を書き、発表する。（本時）

5. 本時について

(1) 本時目標

くじらぐもになったつもりで、物語の続きを想像して返事を書くことができる。

(2) 本時の展開 (本時9 / 9)

学習活動	指導上の留意点 (評価)
<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>くじらぐもになったつもりで、おはなしのつづきをかんがえて、へんじをかこう。</p> </div> <p>2. 物語「くじらぐも」のあとに、くじらぐもがどんなところに行ったり、どんなものを見たり、どんなことをしたりしたか話し合う。 次の学校に行ったんだよ。 海まで行って、本物のくじらと会ったよ。 ほかのくもとなかよく遊んだよ。</p> <p>3. くじらぐもになって、返事を書く。</p> <p>4. 隣同士で読み合い、交流する。</p> <p>5. 発表する。</p> <p>6. 振り返りカードで本時を振り返る。</p>	<p>前時で書いた手紙をいくつか紹介する。 めあてを全員で読んで確認する。</p> <p>いろいろな雲の写真を見せ、想像を広げさせる。 発言の仕方や、聞き方の確認をする。 行った場所・見たもの・したことなど、具体的に話せるように促す。 できるだけたくさんの児童のいろいろな意見が出るように、指名の仕方を工夫する。 詳しく話せた児童や、他の人とは違う考えが言えた児童をほめ、認める。 想像を広げ、進んで話し合いに参加しているか。(発言)</p> <p>自分で書き進めにくい子には、話し合いで出たことを元に助言する。 語句の決まりに気をつけて書くように声をかけ、意識させる。 文と絵が書けるワークシートを用意し、早く手紙が書けた子は、空の様子の絵を書くようにする。 物語の続きを想像して書くことができる。(ワークシート)</p> <p>隣同士で読み、自分との違いや、いいところを見つけるように声をかける。</p> <p>隣の子の手紙の紹介という形で、何人かの子に発表させる。 大きな声で、はっきりと読めるように声を書ける。 聞いている子は、静かに姿勢よく聞けるようにする。 内容でよかったところや、聞き方でよかったところを取り上げ、認めるようにする。</p> <p>自分や友だちの良いところに目が向くようにする。 何人かに発表させ、認め合える雰囲気作りをする。</p>

(3) 本時の視点

本時目標を達成するための手立ては適切だったか。

「ひびき合う」姿は見られたか。